

会報

第59号

発行者

全国特別支援学校病弱教育校長会

千葉県立仁戸名特別支援学校長

相川 利江子

編集

神奈川県立横浜南養護学校長

峰尾 智子

令和4年3月28日 発行

ごあいさつ

全国特別支援学校病弱教育校長会会長
千葉県立仁戸名特別支援学校長

相川 利江子

令和2年度は、歴史的な一年となりました。新型コロナウイルスが猛威を振るい、感染防止のために学校が長期にわたる臨時休業となりました。その後も、様々な対策を取りながら学校経営をすすめられたことだと思います。また、会議や研究会につきましても中止や実施方法の変更が求められました。全国特別支援学校病弱教育校長会として、本来なら総会や2回の研究協議会を実施するところでしたが、書面開催や研究協議会の冊子の作成のみとさせていただきました。誠に申し訳ありませんでした。次年度は、Web開催の計画を立てておりますので、ご協力をお願いいたします。

コロナ禍では負の面が際立ちますが、国によるGIGAスクール構想の前倒しもあり、今まで以上にICT分野では進展がありました。病弱特別支援学校で早くから取り組んでいた遠隔教育の分野では、地元の学校との遠隔授業や交流、さらにはWebによる復学支援会議などこれまでより壁が低くなり容易に行えるようになってきたのではないでしょうか。これまで経験したことがない状況の中で、どのようにすれば授業ができるのか、どのようにすることが病気を抱えている子どもたちのためになるのか、今後も全国の先生方と共に考えていきたいと思います。引き続き、病弱教育の発展のためにご尽力くださるよう、お願いいいたします。

活動報告

令和3年度全国特別支援学校長研究大会・総会

令和3年6月18日(金) 国立オリンピック記念青少年総合センター

令和3年度の研究大会・総会は新型コロナウイルス感染症の感染状況に鑑みweb開催とし、ライブ配信によるオンライン方式を使って1日日程で行いました。また、研究大会の主題を「共生社会の実現に向けた特別支援学校の経営の在り方」～特別支援学校の学びを生涯の学びにつなげる～としました。

午前中は総会で文部科学省副大臣 丹羽 秀樹様よりご祝辞をいただいた他、文部科学省初等中等教育局特別支援教育課長 八田 和嗣様による行政説明、日本体育大学教授 野村一路様より「特別支援学校における運動・スポーツ活動のこれからを考えるーみんな de スポーツ推進委員会調査結果も踏まえてー」、東京藝術大学名誉教授本郷 寛様より「障害者の芸術活動支援推進の動向と美術教育」の2つのご講演をいただきました。

午後は、全体研修会として、5障害種の文部科学省特別支援教育課特別支援教育調査官より、学習指導要領の趣旨を踏まえた各障害の教育の充実についての話があり、病弱・身体虚弱教育部門では、深草 瑞世様よりお話しを伺いました。

令和3年度全国特別支援学校病弱教育校長会総会

令和3年度全国特別支援学校病弱教育校長会第1回研究協議会

令和3年度の全国特別支援学校病弱教育校長会総会・第1回研究協議会は書面開催で実施しました。

令和3年度
全国特別支援学校病弱教育校長会
総会要項

令和3年度全国特別支援学校病弱教育校長会第2回研究大会

令和3年度の第2回研究大会は、第62回全国病弱虚弱教育研究連盟研究協議会並びに総会(奈良大会)がオンデマンド形式によるweb開催となったことに伴い、令和3年8月5日(木)午後、埼玉県立けやき特別支援学校を拠点としてweb開催となりました。

文部科学省特別支援教育課特別支援教育調査官の深草 瑞世様を指導助言者としてお迎えし、ICT機器活用(3分科会)、高校生支援(2分科会)、復学支援(1分科会)の6分科会に分かれ、オンラインでつながって協議を行いました。また、国立徳部支援教育総合研究所主任研究員 土屋 忠之様からも情報提供をしていただきました。

令和2年度より、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、全国特別支援学校病弱教育校長会のメンバーが集まる機会が持てませんでした。第2回研究大会はweb開催ではありましたが、同じ障害種の特別支援学校を経営する校長の研修の場として、また、情報交換の場として、有意義な時間を持つことができました。

『病気の子どもの理解のために』の改定について

現在、全病長事務局6校で改定委員会を組織し、平成19年から全病長と特総研で作成した「病気の子どもの理解のために」についての改定作業進めています。

令和3年度末の時点では、6冊の改定に着手しており、令和4年夏に全病長のHP等で公開していく予定です。今後、改定委員より、情報提供や協力の依頼があると思いますが、ご協力をお願いします。



http://www.zentoku.jp/dantai/jyaku/index_book.html

令和4年度の予定

第1回 理事評議員会

令和4年5月16日(月) 10:00~12:00

総会 令和4年6月16日(木) 10:00~10:30

第1回研究協議会

令和4年6月17日(金) 10:30~12:00

第2回研究協議会

令和4年8月

第2回理事評議員会

令和5年1月25日(水) 10:00~12:00

第4回ロボットプログラミング選手権大会 2022

令和5年2月1日(水) 10:00~14:30

ロボットプログラミング選手権 2021（病弱部門）について

神奈川県立横浜南養護学校

今年度で3回目を迎えた大会です。回を重ねるごとに各地区で盛り上がりを見せており、「令和3年度 第62回全国病弱虚弱教育研究連盟研究協議会奈良大会」では、分科会発表で佐賀県立中原特別支援学校が、特別企画では神奈川県立横浜南養護学校、岩手県立一関清明支援学校、岐阜県立長良特別支援学校が合同でロボットプログラミング選手権の取組について発表をしました。

このような中、昨年度までは神奈川県立横浜南養護学校が主幹校となり、地区大会の運営サポート、全国大会の運営を行っていましたが、今年度は各地区的独自性を活かせるようにと各地区に事務局を置き、大会運営を各地区で行うことしました。

関東甲信越地区大会 令和3年10月6日 事務局：神奈川県立横浜南養護学校

9校16チームがエントリーしました。新型コロナウイルス感染症対策で、無観客行われたため、静かな室内でしたが、土俵上はプロロゴが熱い戦いを繰り広げました。ぶつかって押し出すだけでなく、プロロゴを竿立ちさせて動けなくする決まり手もあり、思わず声をあげてしまうような試合もありました。5チームが全国大会の出場権を勝ち取りました。



近畿東海北陸地区大会 令和3年11月2日 事務局：大阪府立刀根山支援学校

近畿・東海・北陸地区大会では、9校16チームがエントリーしました。対戦相手を決めるトーナメント抽選会では、刀根山支援学校の生徒がExcelでプログラミングしたルーレットを使い対戦相手を決めました。試合当日は、朝から試合の画面を手に汗握りながら、観戦していました。試合に勝った時は、学校中に響き渡るような歓声があがりました。優勝は、大阪府立刀根山支援学校のチームViolet（ヴァイオレット）でした。



中国四国地区大会 令和3年11月18日 事務局：徳島県立鴨島支援学校

中国四国地区大会では、4校6チームがエントリーしました。対戦の様子が各校によりよく伝わるように、上部からも撮影して3画面で配信したり、試合の合間には、各校が送ってくれた学校紹介を流したりして盛り上げる工夫をすることにより、エントリー校と心の距離が近くなった気がしました。各チームの想いを込めたプログラミングを挿入したプロロゴがぶつかり合い、何度も膠着になるなど、白熱した試合となりました。



北海道・東北地区大会 令和3年12月3日 事務局：青森県立青森若葉養護学校

3校6チームで試合を行いました。各チームのプログラムのレベルが高く、力の差がない白熱した試合が多く会場は大盛り上がりました。優勝は青森県立青森若葉養護学校の「日和ってる奴いる？」、準優勝は市立札幌山の手支援学校「rainbowpumpkins」でした。

今大会は、膠着状態による取り直しが少なく、試合時間の短い緊迫した対戦が多く見られました。各校が昨年度の反省のもと工夫をこらした結果が、今年度の取り組みの色となって表れたのかもしれません。

次年度も本校が北海道・東北地区予選の事務局を務めます。今年度以上に盛り上がる大会にしたいと思います。



九州地区大会 令和3年12月14日 事務局：鹿児島県立加治木養護学校

九州地区大会では、参加校6校の計12チームが、4つの全国大会出場権をかけて、熱戦を繰り広げました。

今回、本校からは児童生徒は参加せず、運営のみで携わらせていただきましたが、個性豊かな動きを見せるロボットたちに、操作する私たちも思わず引き込まれてしまうような、そんな楽しい大会となりました。

参加校の皆様、御協力ありがとうございました。



全国大会 令和4年2月1日 事務局：神奈川県立横浜南養護学校

地区大会を勝ち抜いた18チーム（うちシード2チーム）が熱戦を繰り広げました。

各地区を突破した強者の大会で、運営スタッフを唸らせる戦いが随所に見られました。全国大会では、優勝、準優勝、3位の各メンバーにメダルが授与され、優秀プログラムに技術賞が授与されました。

| | | |
|-----|---------------|----------------|
| 優勝 | 千葉県立仁戸名特別支援学校 | 将軍 |
| 準優勝 | 千葉県立仁戸名特別支援学校 | ケルベロス |
| 第3位 | 佐賀県立中原特別支援学校 | ミニロボ |
| 技術賞 | 和歌山県立みはま支援学校 | 黒鴉 |
| | 青森県立青森若葉養護学校 | 日和ってる奴いる？ フムフム |
| | 香川県立善通寺養護学校 | 善通寺養護・中学部 N 1 |



手探りで始めたロボットプログラミング選手権（病弱教育部門）も3年目となり、次年度、全国大会の主幹校は神奈川県立横浜南養護学校から千葉県立仁戸名特別支援学校へバトンタッチすることになりました。これまでの横浜南養護学校での運営へのご協力ありがとうございました。さらなるロボットプログラミング選手権（病弱教育部門）の発展を期待しています。